

県内企業景況調査結果

(2025年4～6月期実績、2025年7～9月期見通し)

— 県内景況は、拡大している —

(前回)県内景況は、拡大している

○業況判断D.I.は「好転」超幅がやや拡大し、**13期連続のプラス**

来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し

(4ページ)

○景況天気は12期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し

(7ページ)

■主要D.I. (カッコ内は前回調査からの変動幅、単位:%ポイント)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期 実績	12.7 (+4.2)	晴れ 17.0(+4.8)	11.8 (+4.3)	33.1 (+1.1)	6.1 (+8.9)	56.1 (▲0.3)
来期 見通し	13.7	晴れ 16.0	13.7	33.4	1.0	56.1

[調査内容についてのお問い合わせ先]

調査部 金融経済調査課(担当:比嘉) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725

- 実績(4～6月期):「好転」超幅がやや拡大し、**13期連続のプラス**〔前期8.5%ポイント(以下、単位省略)⇒当期12.7〕
 - 人手不足、原材料高、人件費増の影響がみられるも、引き続き観光需要、個人消費が堅調に推移し、建設需要も底堅さがみられることから、県内景況は拡大している
- 見通し(7～9月期):来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し〔来期13.7〕
 - 引き続き人手不足、原材料高、人件費増の影響はあるも、県内景況は総じて拡大基調が続くとみられる

(単位:%ポイント)



(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 実績：12期連続の「 晴れ」〔前期12.2⇒当期17.0〕

運輸業で「 (晴れ)」→「 (快晴)」

建設業、サービス業で「 (薄曇り)」→「 (晴れ)」

卸売業、小売業、飲食店・宿泊業で引き続き「 (晴れ)」

製造業で引き続き「 (薄曇り)」

情報通信業で引き続き「 (曇り)」

- 見通し：引き続き「 晴れ」となる見通し〔来期16.0〕

小売業で「 (晴れ)」→「 (快晴)」

製造業で「 (薄曇り)」→「 (晴れ)」

卸売業、サービス業で引き続き「 (晴れ)」

情報通信業で「 (曇り)」→「 (薄曇り)」

建設業で「 (晴れ)」→「 (薄曇り)」

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2024年				2025年			
	1～3月期 実績	4～6月期 実績	7～9月期 実績	10～12月期 実績	1～3月期 前回実績	4～6月期 前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	 18.1	 16.6	 20.2	 14.2	 12.2	 (15.4)	 17.0	 16.0



快晴

— 30以上～100以下



晴

— 10以上～30未満



薄曇り

— △5以上～10未満



曇り

— △30以上～△5未満



雨

— △100以上～△30未満

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象 企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
全産業(※1)		367	314	85.6
	製造業	68	56	82.4
	建設業	68	62	91.2
	卸売業	47	40	85.1
	小売業	46	39	84.8
	運輸業	33	31	93.9
	情報通信業(※2)	23	19	82.6
	サービス業	46	38	82.6
	飲食店・宿泊業	33	26	78.8

※1 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

※2 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し自計記入またはWEB調査システムからの回答を求める方法。

5. 調査対象期間

当期：2025年4～6月期実績

来期：2025年7～9月期見通し

6. 調査実施期間

2025年5月中旬～2025年6月上旬

(発送：2025年5月20日、回収基準日：2025年6月6日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

Ⅱ. 調査結果 Ⅰ. 業況判断

— 当期は「好転」超幅がやや拡大し、13期連続のプラス

来期は「好転」超幅がほぼ横這いの見通し —

- ・ 自社の業況を総合的に判断する当期の業況判断D.I.（全産業）は12.7と、13期連続のプラスとなった。
- ・ 卸売業や小売業で原材料高騰や人手不足の影響による「悪化」回答があったものの、製造業、運輸業で価格転嫁の実施および建設需要や観光需要に伴う売上の確保により「好転」超幅が拡大した。
- ・ 来期の業況判断D.I.は 13.7と、「好転」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表3 業況判断D.I.（前年同期比、「好転」－「悪化」企業割合）

（単位：%ポイント）

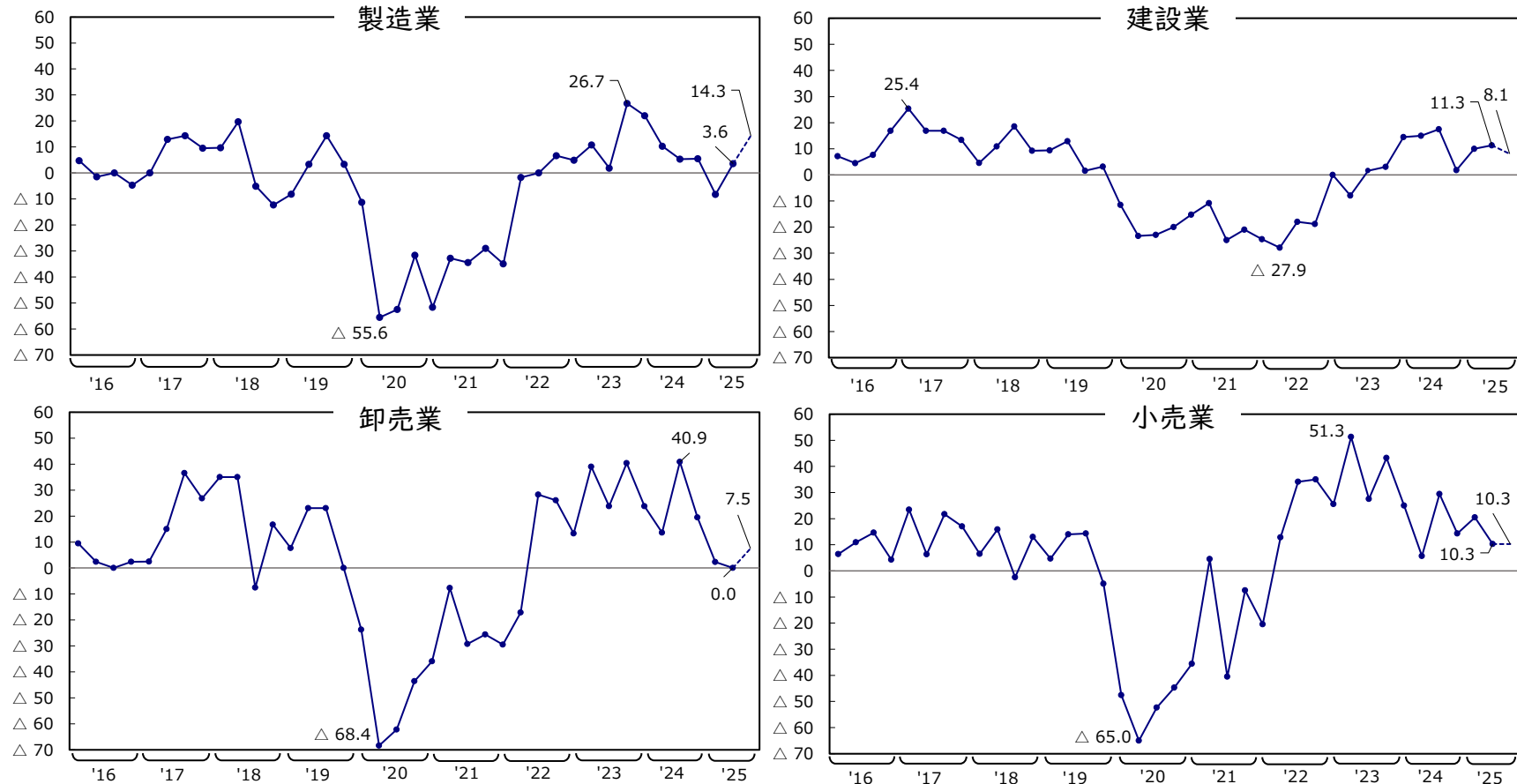
区分 業種		2024年				2025年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	18.2	12.5	22.0	9.7	8.5	(7.8)	12.7	13.7
	① 好転(%)	34.8	29.2	33.4	27.0	26.0	(21.9)	27.7	25.5
	不変(%)	48.6	54.2	55.1	55.7	56.4	(63.9)	57.3	62.7
	② 悪化(%)	16.6	16.7	11.5	17.3	17.6	(14.1)	15.0	11.8
	製造業	22.0	10.3	5.3	5.5	△ 8.3	(0.0)	3.6	14.3
	建設業	14.5	15.0	17.5	1.8	10.0	(16.7)	11.3	8.1
	卸売業	23.8	13.6	40.9	19.5	2.3	(2.3)	0.0	7.5
	小売業	25.0	5.7	29.4	14.3	20.5	(20.5)	10.3	10.3
	運輸業	9.4	33.3	22.6	23.3	17.2	(10.3)	25.8	25.8
	情報通信業(※)	△ 5.3	△ 11.8	0.0	6.3	11.1	(△ 5.6)	5.3	5.3
	サービス業	19.5	5.1	15.0	△ 7.5	△ 4.9	(△ 2.4)	18.4	13.2
	飲食店・宿泊業	24.0	23.1	53.6	29.2	40.7	(18.5)	38.5	30.8

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

- ・ 製造業では、食料品や飲料で価格転嫁の実施により販売数量が減少した先がみられたものの、印刷で長期に亘って交渉してきた価格改定の実現や、窯業・土石製品で公共工事および民間のマンション建設向け生コン出荷が好調だったこと等により「悪化」超から「好転」超へ転じた。
- ・ 卸売業では、価格転嫁により販売数量が減少、取引中止となった先や、人手不足、人材定着難が影響し「好転」超から「保合い」となった。
- ・ 小売業では、個人消費は堅調に推移しているものの、販売数量の落ち込みを懸念し十分に価格転嫁できていない等の声も聞かれ「好転」超幅が大幅に縮小した。

図表4-1 業種別の業況判断D.I.の推移

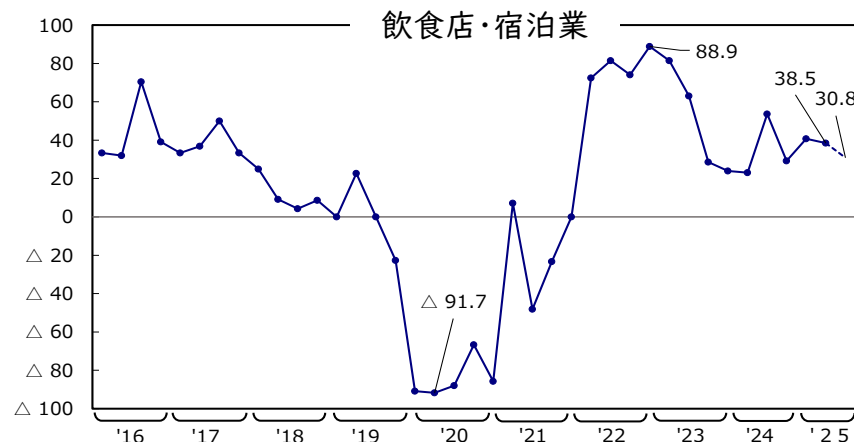
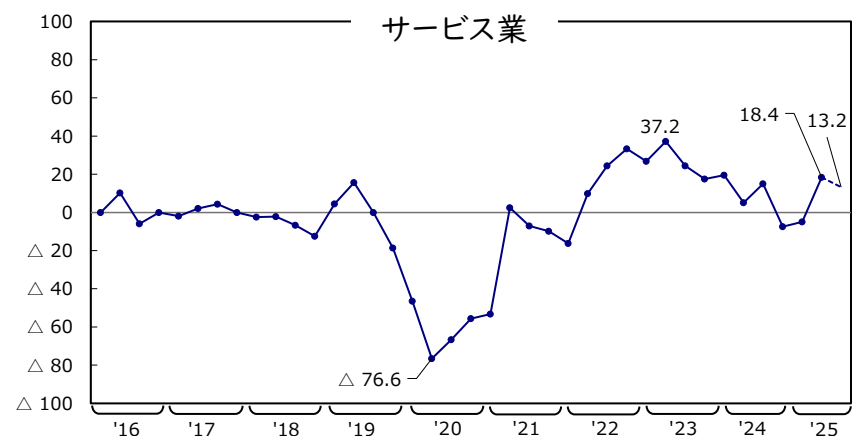
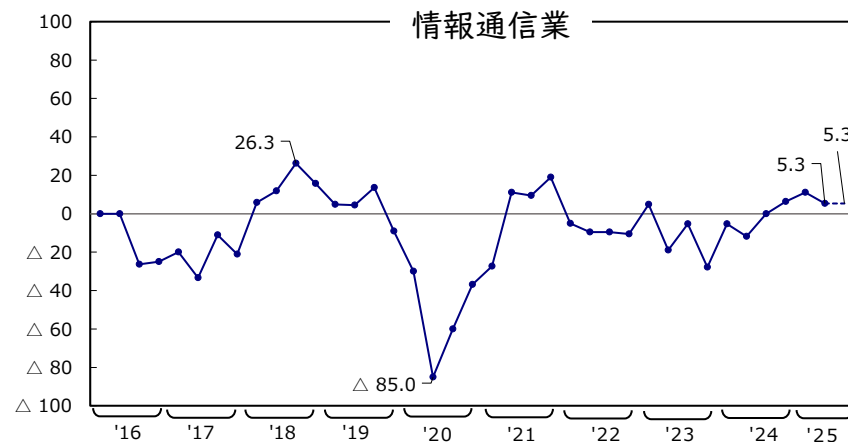
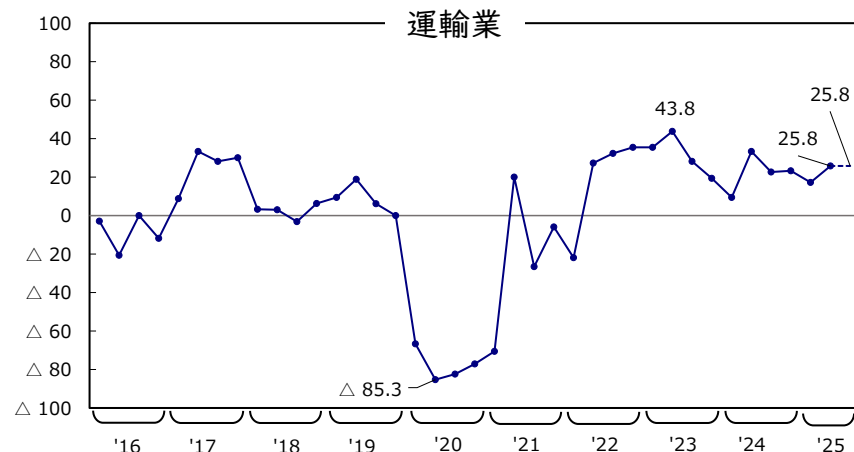
(単位:%ポイント、点線は見通し)



- 運輸業では、ゴールデンウィーク等の観光需要により一般貨物運送が増加したこと、建築資材等を運送する特殊輸送が好調だったこと等により「好転」超幅が拡大した。
- サービス業では、ビルメンテナンスやその他サービス業で「悪化」回答から「不変」回答へシフトしたほか、観光施設の来園者数増等により「悪化」超から「好転」超に転じた。
- 飲食店・宿泊業では、ゴールデンウィーク等の観光需要による「好転」回答があった一方、原材料、人件費高騰の影響や人手不足による機会損失等の声も聞かれ「好転」超幅がやや縮小した。

図表4-2 業種別の業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント、点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は12期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースでみると、資金繰りD.I. (△2.8→6.1) で「苦しい」超から「楽」超へ転じ、売上D.I. (7.5→11.8) で「増加」超幅がやや拡大、採算水準D.I. (32.0→33.1) で「黒字」超幅ほぼ横這いとなったことから、景況天気(12.2→17.0)は12期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、資金繰りD.I. (1.0) で「楽」超幅が縮小するものの、売上D.I. (13.7) で「増加」超幅および採算水準D.I. (33.4) で「黒字」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気(16.0)は引き続き「晴れ」の見通し。

図表5-1 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)
(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年				2025年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業		18.1	16.6	20.2	14.2	12.2	(15.4)	17.0	16.0
製造業		26.0	19.5	18.1	12.1	8.3	(7.2)	9.5	13.7
建設業		9.1	11.1	8.2	3.0	6.7	(15.0)	12.9	7.0
卸売業		33.3	30.3	35.6	26.8	21.7	(17.1)	18.3	20.8
小売業		25.9	15.2	32.4	21.9	23.9	(26.5)	25.6	30.8
運輸業		18.8	24.4	22.6	21.1	20.7	(18.4)	32.3	18.3
情報通信業		△21.1	△ 3.9	△ 5.0	△ 4.2	△ 5.6	(△3.7)	△ 8.8	△ 1.8
サービス業		17.1	12.8	11.7	10.0	6.5	(15.4)	16.7	14.0
飲食店・宿泊業		14.7	12.8	39.3	23.6	12.3	(23.5)	28.2	24.4

	快晴	—	30以上～ 100以下
	晴	—	10以上～ 30未満
	薄曇り	—	△ 5以上～ 10未満
	曇り	—	△ 30以上～△ 5未満
	雨	—	△100以上～△30未満

図表5-2 全産業における主要3指標の推移

区分	2025年			
	1~3月期	4~6月期	7~9月期	
	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業				
売上D.I.	7.5	(15.4)	11.8	13.7
採算水準D.I.	32.0	(30.1)	33.1	33.4
資金繰りD.I.	△ 2.8	(0.6)	6.1	1.0

2-1. 売上

— 当期は「増加」超幅がやや拡大、来期は「増加」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で11.8と「増加」超幅がやや拡大した。
- 卸売業で値上げ交渉による取引中止や販売数量減が影響し「増加」超から「減少」超へ転じたものの、製造業では印刷で価格転嫁を実施したこと、建設業で公共工事やマンション建設需要があったこと、運輸業、飲食店・宿泊業で観光需要に伴う売上を確保できたことにより「増加」超幅がやや拡大した。
- 来期は、全産業で13.7と「増加」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表6 売上D.I. (前年同期比、「増加」－「減少」企業割合)

(単位：%ポイント)

区分 業種		2024年				2025年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①—②)		21.6	11.9	23.9	13.0	7.5	(15.4)	11.8	13.7
	① 増加(%)	43.9	36.9	44.9	37.3	37.3	(32.9)	38.9	33.4
	不変(%)	33.9	38.1	34.1	38.3	32.9	(49.5)	34.1	46.8
	② 減少(%)	22.3	25.0	21.0	24.3	29.8	(17.6)	27.1	19.7
	製 造 業	27.1	17.2	7.0	7.3	△ 8.3	(3.3)	△ 3.6	12.5
	建 設 業	3.2	0.0	5.3	△ 8.9	△ 5.0	(8.3)	3.2	△ 3.2
	卸 売 業	35.7	25.0	50.0	31.7	18.6	(14.0)	△ 12.5	5.0
	小 売 業	38.9	11.4	41.2	11.4	28.2	(38.5)	30.8	25.6
	運 輸 業	21.9	30.0	35.5	30.0	10.3	(13.8)	35.5	22.6
	情報通信業	△ 36.8	△ 17.6	△ 5.0	△ 6.3	△ 27.8	(△11.1)	0.0	5.3
	サービス業	29.3	5.1	17.5	15.0	7.3	(22.0)	13.2	18.4
	飲食店・宿泊業	40.0	19.2	57.1	33.3	40.7	(33.3)	50.0	34.6

2-2. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がほぼ横這い、来期も「黒字」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で33.1と「黒字」超幅がほぼ横這い、情報通信業以外のすべての業種で「黒字」超となった。
- 小売業で人件費等の経費高騰の影響により「黒字」超幅が縮小したものの、卸売業で価格転嫁が進んだこと、サービス業、飲食店・宿泊業でゴールデンウィーク等の観光需要による売上増によって、全産業ベースで「黒字」超を維持した。
- 来期は、全産業で33.4と「黒字」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表7 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種		2024年				2025年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①—②)		31.0	32.4	29.3	28.7	32.0	(30.1)	33.1	33.4
① 黒字(%)		47.0	46.2	46.2	44.7	48.3	(42.6)	47.5	43.6
トト(%)		37.0	40.1	36.9	39.3	35.4	(44.8)	38.2	46.2
② 赤字(%)		16.0	13.8	16.9	16.0	16.3	(12.5)	14.3	10.2
製 造 業		37.3	36.2	38.6	27.3	33.3	(23.3)	35.7	33.9
建 設 業		27.4	26.7	14.0	16.1	26.7	(28.3)	24.2	24.2
卸 売 業		61.9	56.8	56.8	58.5	51.2	(44.2)	60.0	57.5
小 売 業		30.6	34.3	41.2	42.9	46.2	(41.0)	38.5	53.8
運 輸 業		31.3	40.0	25.8	26.7	44.8	(34.5)	41.9	22.6
情報通信業		0.0	5.9	△ 25.0	△ 18.8	0.0	(△5.6)	△ 15.8	△ 10.5
サービス業		31.7	30.8	22.5	25.0	29.3	(29.3)	34.2	26.3
飲食店・宿泊業		△ 8.0	3.8	35.7	33.3	3.7	(29.6)	23.1	42.3

2-3. 資金繰り

— 当期は「苦しい」超から「楽」超へ転じ、

来期は「楽」超幅が縮小する見通し—

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で6.1と、「苦しい」超から「楽」超へ転じた。
- 人手不足や経費高騰の影響を受けつつも、公共工事やマンション建設等の建設需要やゴールデンウィーク等の観光需要により売上を確保できたことで「苦しい」超から「楽」超へ転じた。
- 来期は、全産業で1.0と「楽」超幅が縮小する見通しとなっている。

図表8 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」－「苦しい」企業割合)

(単位：%ポイント)

区分 業種		2024年				2025年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①―②)		1.6	5.4	7.3	1.0	△ 2.8	(0.6)	6.1	1.0
	① 楽 (%)	11.9	13.1	15.3	11.3	10.0	(9.4)	14.3	10.5
	不変 (%)	77.7	79.2	76.8	78.3	77.1	(81.8)	77.4	79.9
	② 苦しい(%)	10.3	7.7	8.0	10.3	12.9	(8.8)	8.3	9.6
	製 造 業	13.6	5.2	8.8	1.8	0.0	(△5.0)	△ 3.6	△ 5.4
	建 設 業	△ 3.2	6.7	5.3	1.8	△ 1.7	(8.3)	11.3	0.0
	卸 売 業	2.4	9.1	0.0	△ 9.8	△ 4.7	(△7.0)	7.5	0.0
	小 売 業	8.3	0.0	14.7	11.4	△ 2.6	(0.0)	7.7	12.8
	運 輸 業	3.1	3.3	6.5	6.7	6.9	(6.9)	19.4	9.7
	情報通信業	△ 26.3	0.0	15.0	12.5	11.1	(5.6)	△ 10.5	0.0
サービス業	△ 9.8	2.6	△ 5.0	△ 10.0	△ 17.1	(△4.9)	2.6	△ 2.6	
飲食店・宿泊業	12.0	15.4	25.0	4.2	△ 7.4	(7.4)	11.5	△ 3.8	

3. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がやや拡大、来期は「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- ・ 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で4.8と「容易」超幅がやや拡大となった。
- ・ 来期は、全産業で3.2と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表9 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種		2024年				2025年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①―②)		4.4	3.5	7.0	7.7	2.8	(2.8)	4.8	3.2
① 容易(%)		6.9	5.8	7.3	8.7	5.0	(6.3)	6.7	5.4
不変(%)		90.6	92.0	92.4	90.3	92.8	(90.3)	91.4	92.4
② 困難(%)		2.5	2.2	0.3	1.0	2.2	(3.4)	1.9	2.2
製 造 業		6.8	5.2	10.5	10.9	1.7	(1.7)	1.8	0.0
建 設 業		4.8	5.0	5.3	12.5	6.7	(6.7)	9.7	6.5
卸 売 業		7.1	4.5	4.5	4.9	4.7	(0.0)	5.0	2.5
小 売 業		11.1	2.9	8.8	0.0	0.0	(0.0)	7.7	5.1
運 輸 業		△ 6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	(3.4)	△ 3.2	△ 3.2
情報通信業		0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	(△5.6)	△ 5.3	△ 5.3
サービス業		0.0	2.6	10.0	7.5	7.3	(7.3)	13.2	10.5
飲食店・宿泊業		8.0	3.8	10.7	20.8	△ 3.7	(3.7)	0.0	3.8

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は△13.3と「減少」超幅がほぼ横這いとなった。来期は0.7と「減少」超から「増加」超へ転じる見通しとなっている。

図表10 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年				2025年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	10.2	△ 7.3	15.6	2.3	△ 12.0	(△4.2)	△ 13.3	0.7
	① 増加(%)	36.5	25.5	38.5	32.8	25.4	(21.1)	25.9	30.4
	不変(%)	37.2	41.6	38.5	36.6	37.3	(53.5)	34.8	40.0
	② 減少(%)	26.3	32.8	23.0	30.5	37.3	(25.4)	39.3	29.6

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は59.3と「上昇」超幅が拡大した。来期は54.1と「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

図表11 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年				2025年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	49.6	52.6	48.9	46.6	50.0	(58.5)	59.3	54.1
	① 上昇(%)	55.5	56.9	54.8	52.7	54.2	(59.9)	63.0	58.5
	不変(%)	38.7	38.7	39.3	41.2	41.5	(38.7)	33.3	37.0
	② 下降(%)	5.8	4.4	5.9	6.1	4.2	(1.4)	3.7	4.4

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△9.6と、前期末と比べて「過剰」超幅がやや拡大した。

図表12 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種		2024年				2025年	
		3月期末	6月期末	9月期末	12月期末	3月期末	6月期末
全産業D.I. (①-②)		△ 0.7	△ 2.9	△ 6.7	△ 3.8	△ 6.3	△ 9.6
	① 不足(%)	9.5	7.3	4.4	5.3	3.5	1.5
	適正(%)	80.3	82.5	84.4	85.5	86.6	87.4
	② 過剰(%)	10.2	10.2	11.1	9.2	9.9	11.1

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で56.1と「不足」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期は、全産業で56.1と「不足」超幅が横這いの見通しとなっている。

図表13 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種		2024年				2025年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①-②)		58.9	56.4	57.3	54.0	56.4	(58.6)	56.1	56.1
	① 不足(%)	60.2	57.7	58.9	55.3	57.7	(59.6)	57.0	57.3
	適正(%)	38.6	41.0	39.5	43.3	41.1	(39.5)	42.0	41.4
	② 過剰(%)	1.3	1.3	1.6	1.3	1.3	(0.9)	1.0	1.3

経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 経営上の問題点としては、「**原材料高**」、「**求人難**」が最も高く、続いて「**人件費の増加**」が高かった。
- 製造業、運輸業、飲食店・宿泊業で「**原材料高**」が、建設業、小売業、サービス業で「**求人難**」が最も高い割合となり、卸売業で「**原材料高**」「**求人難**」ともに最も高い割合となった。

